

メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 1:13~14 「御子のうちにある贖い」

[13]「神は、私たちが暗やみの圧政から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました」

「暗やみの圧政」…キリストに敵対するサタンの力、またその配下にある悪霊の力、影響力のもとにあること。→ルカ22:52~53

サタンの勝利と思われたことも神の救いのご計画の中に組み込まれていたことであり、キリストの十字架と復活により神の救いのご計画は成就し、人を滅びに至らせるサタンの力、暗やみの力は打ち破られた。→創世記3:15の原福音の成就。

キリストは今やすべての支配、権威、権力、主権を持っておられ、また神はいつさいのものをキリストの足の下に従わせ、いつさいのものの上に立つかしらであるキリストを教会にお与えになった。→エペソ1:20~22

イエスご自身も「わたしは天においても、地においても、いつさいの権威が与えられています」と言われる。→マタイ28:18

そのようなわけで、キリストは現在、暗やみの世界に対する権威、支配権を持っておられるので、その圧迫、影響のもとにある人間を確実に救うことができるのである。

事実、神はキリストを信じる者たちに対してそのようにしてくださった。神は私たちが暗やみの圧政から、御子キリストのご支配の中に移してくださいました。

「移す(メテ-セン)」という語には、戦いにおいて勝利した国が敗れた国の民を捕えて他の国へ移動させ、そこに住ませたときに使われたことば。旧約時代の北王国イスラエルのアッシリヤ捕囚、南王国ユダのバビロン捕囚などがこのことばの意味するところ。パウロはこの「移す」ということばを使って、神が暗やみの力を打ち破られ、人々をこれまで住んでいた暗やみの世界から、ご自身の国、御子キリストの支配される国へ移されたのだということをはっきりと教えている。

神によってなされたこの移動こそ単なる移動ではなく、救いなのである。

[14]「この御子のうちにあつて、私たちは、贖い。すなわち罪の赦しを得ています」

「贖い」とは聖書の中心的な思想の一つであり、それは単に助けるとか解放するとかいう意味ではなく、身代金を払って奴隷や捕われの状態にある者を救出するという意味。そしてそこには何らかの犠牲、代価が払われなければならない。

イスラエル人の出エジプトの時、主は指導者モーセを通して、傷のない雄の一歳の子羊を殺してその血を取り、それを彼らの家の門柱と鴨居に塗りつけるように命じられた。その夜、主はエジプトを打つために行き巡られ、門柱と鴨居に子羊の血が塗りつけられていないエジプト人の家の初子は皆、打たれて死んだ。この恐ろしい事件によりエジプトは強制的にイスラエル人たちをその国から追い出したのであった。主がエジプトを打ったとき、主はエジプトにいたイスラエル人の家を過ぎ越され、彼らの家を救われた。これを記念してイスラエルでは過越の祭りがおこなわ

れるようになったのである。→出エジプト11~12章

このときに彼らのために殺された子羊こそ贖いの子羊となったのである。そしてこの過越のときに殺された子羊こそイエス・キリストの型なのであった。→マタイ26:2,20:28

このキリストの十字架の贖いによって私たちは罪の赦しを得ることができる。→ヨハネ3:16

罪とは神を知らず、神を神として認めず、神に逆らう生き方であり、神に向かわず滅びに向って歩んでいた的外れな生き方である。最初の人間アダムとエバが罪を犯して以来、この罪の性質はすべての人間の中に受け継がれ、人を神から離れさせ、死と滅びに追いやるのである。→マルコ7:21~23,ローマ6:23

私たち信仰者はイエス・キリストにあって13~14節に書かれているようなすばらしい特権を与えられている。それゆえ、暗やみの圧政から救い出された者、罪贖われた者、神の子とされた者として感謝しつつ、あらゆる力をもって強くされることを神に祈り求め、また忍耐と寛容を尽くしてこの地上で、すばらしいキリストの救いを宣べ伝え、堅く信仰に立って歩みを進める者となっていきたい。